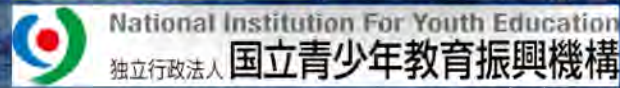
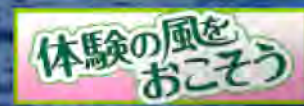




# 平成29年度 ミクロネシア諸島 自然体験交流事業 実施報告



主催:独立行政法人国立青少年教育振興機構  
後援:外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国  
ミクロネシア連邦・パラオ共和国





# 受入事業

## ■事業の目的

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

## ■日程

平成29年6月18日(日)～6月27日(火) 9泊10日

## ■招聘参加者(10歳～14歳)、随行者

マーシャル諸島共和国	参加者23名	随行者 4名	計27名
ミクロネシア連邦	参加者47名	随行者 8名	計55名
パラオ共和国	参加者12名	随行者 2名	計14名
合計	参加者82名	随行者14名	計96名

## ■日本人参加者

ホストファミリーの子供たち(小学5年生～中学2年生).....30名

## ■地方プログラム

北海道(国立日高青少年自然の家)、福島県(国立磐梯青少年交流の家)、広島県(国立江田島青少年交流の家)

日付	活動内容
6月18日	日本到着 オリエンテーション
6月19日	スポーツ交流 東京タワー見学 歓迎交流会
6月20日	松濤中学校訪問
6月21日	国会議事堂見学 各国大使館訪問
6月22日	各地方施設へ移動 (北海道・福島県・広島県)
6月23日	小学校訪問
6月24日	自然体験活動 ホームステイ
6月25日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー
6月26日	各地方施設出発 成田市内ホテル泊
6月27日	日本出国

各国・地域対抗で様々なゲームを実施しました。特につなひきは全員が一体となって盛り上がりました。



松濤中学校では、招聘参加者と生徒が一緒になって書道、箏、剣道、昔遊び、着付けなどの日本文化を体験しました。

大使館では、日本とミクロネシア諸島との関係や交流の歴史、大使館の仕事について説明をしていただきました。



広島プログラムでは、江田島市立鹿川小学校を訪問し、鹿川小学校の生徒と一緒に机を並べて給食を食べました。

北海道プログラムでは、国立日高青少年自然の家で沢登りを体験しました。招聘参加者は、水が冷たくて驚いていました。



# 派遣事業

## ■事業の目的

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

## ■日程

平成29年7月24日(月)～8月2日(水) 9泊10日

※1日目は参加者研修会(国立オリンピック記念青少年総合センター)

## ■派遣先

マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦ポンペイ州、パラオ共和国

## ■参加者(小学5年生～中学2年生)

47名(各国16名ずつ派遣)

※マーシャルのみ1名辞退者が出たため15名派遣

## ■随行者

ディレクター、リーダー、サブリーダー、コーディネーター、看護師、通訳

※前年度少年の主張全国大会発表者のうち、高校生9名がサブリーダーとして参加

日付	活動内容
7月24日	参加者研修会 オリンピックセンター泊
7月25日	グアムへ移動 ※パラオのみ25日にパラオ着
7月26日	ポンペイ、マーシャル へ移動 オリエンテーション
7月27日	○自然体験
7月28日	○野外生活体験
7月29日	○異文化交流体験
7月30日	ホームステイ
7月31日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー
8月1日	グアムへ移動
8月2日	日本へ帰国 合同学習発表会

マーシャルでのシュノーケリング体験では、マーシャルブルーと称される鮮やかな青色に輝く海を堪能しました。



無人島では、パラオの子供たちと一緒に野外炊事をしました。みんなで食べるカレーの味は格別でした。

パラオでは、アルモノガイ小学校の子供たちから伝統的な踊りを教えてもらいました。



1泊2日のホームステイでは、ポンペイの子供たちとすっかり仲良くなりました。ホストファミリーの温かさが心に沁みました。

ホストファミリーとのさよならパーティーでは、お互いの文化を紹介し合い、交流を深めました。



＜於 成田エクセルホテル東急＞

10日間一緒に過ごした仲間とお別れです。またいつか会いましょう！



# ■派遣参加者の声

- 私はこの事業に参加して、「マーシャルの良さ」を知りました。現地の方々は優しくてフレンドリーな方が多かったです。自然に恵まれていてとても良いなと思いました。
- この事業に参加して、行く前と帰ってきた後で、心の持ち方が変わったなど自分で実感しました。今まで日本でしか生きてことがない自分もったいなくなりました。英語がしゃべれなくても、笑顔とジェスチャーでつながった時のうれしさは忘れられません。この気持ちを大切に、15年後、りっぱな社会人になってポンペイに帰りたいです。
- パラオの人たちとともに行動をすることにより、いつもの自分だったらできないようなことに取り組むことができました。また、人種などというものはなく、人間としてかかわりあい、改めて人の温かさというのが分かりました。
- 自然や友情のうつくしさなどがすごくわかる、ステキな10日間になった。

# ■当年度までの参加者総数



2002~2017	マーシャル	ミクロネシア				パラオ	合計	子供の参加者総数	
		ポンペイ	チューク	ヤップ	コスラエ				
受入	子ども	164	171	174	173	160	173	1,015	1,015
	随行者	32	33	33	33	30	33	194	
	小計	196	204	207	206	190	206	1,209	
派遣	子ども	215	301	295	253	185	490	1,739	1,739
	随行者	100	99	109	73	58	156	595	
	小計	315	400	404	326	243	648	2,336	
合計	511	604	611	532	433	854	3,545	2,754	

※サブリーダーは、随行者に含む

# ミクロネシア事業の参加者は、その後、積極的に海外留学をしています。

●本事業参加者の29.8%が本事業参加後、「海外留学をした(している)」と回答しており、日本人大学生全体の留学者の割合の2.15%<sup>\*)</sup>と比べて大きく上回っています。

※) 日本人大学生全体の留学者の割合は下記により算出

- ①日本から海外への留学者数(平成24年度):60,138名(「ユネスコ統計局、OECD、IIE等における統計」平成27年2月:文部科学省)
  - ②高等教育機関在籍日本人学生数(平成24年度):2,796,057名(「平成24年度学校基本調査(確定値)」平成24年12月:文部科学省)
- ※日本人大学生全体の留学者の割合:①÷②×100=2.15%

# 「海外留学をした(している)」の回答

